

埼玉県退職校長会  
大里支部会

# おとさ

第 41 号

(題字は支部長)

平成28年8月1日

発行 者

蜂 須 栄

## あいさつ

### 必有隣

支部長 蜂須 栄

「天災は忘れたところにやって来る」といいますが、東日本大震災からわずか五年、忘れるどころか未だ復興途上です。その最中の四月十四日、熊本を大地震が襲いました。二度の大揺れの後にも、本震と同じほどの揺れが頻発し、人が感じる余震は千数百回に及んでいます。被災された方々の恐怖と当惑はいかばかりか、毎日のTV報道に涙するばかりです。

しかし、東日本大震災でも今回の熊本地震でも、被災された方々は整然と列を作って救援物資を受け取っています。こうした姿を外国の人々は驚嘆をもって見、称賛していると聞きます。被災された方々には申し訳ありませんが、我先に手を出すとこのない美しい姿は日本人の誇りと胸を張って大声で叫びたい気持ちです。

過日、かつての上司から「徳不孤

必有隣」という論語の一節を伺いました。黙々と惨状に耐え、整然と救援を受ける姿は、人々の高い倫理規範の故と考えます。だから、また多くのボランティアも駆けつけるのではないのでしょうか。まさに「徳不孤必有隣」です。

このような誇れる姿は、古くから広く行われてきた教育による言ったら、我田引水になるでしょうか。様々な事象を見聞するにつけ、教育水準は、識字はもとより、人々の心の規範によってこそ測れるように感じます。子どもたちに確かな教育を施すことで、規範が養われ、危機にも屈しない強い社会を築くことができると思っています。

さて、平成二十八年度の退職校長会大里支部は、新たに十三名の会員を迎え、三百三十九名で出発しました。本年度もまた、会員相互の親睦を図りながら、学校現場に協力し、「確かな教育」を支援してまいりたいと存じます。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。そのためにも、皆さまには、ご自身の体

調管理に意を用い、健康の維持増進にお努めいただきますようお願いいたします。

## 大里支部総会概要

五月六日(金)

幡羅公民館

来賓に深谷市教育委員会教育長小柳光春様、北部教育事務所副所長加松浩様、県退職校長会副会長栗田憲昭様を迎え、本年度も、盛大に実施することができました。

はじめに、昨年度ご逝去された九名の方のご冥福を祈り、黙祷を捧げました。本会発展に寄与いただきましたこと、感謝申し上げます。

次に、蜂須栄支部長から今年度も会員三百三十九名の理解と協力の下、諸教育機関や現職校長会との連携を密にし、事業を推進していききたい旨の方針が示されました。

あいさつの中で、小柳教育長からは、立志と忠恕の深谷教育や確かな学力の育成を地域・保護者とともに推進するための深谷版コミュニティスクール新設等のお話がありました。加松副所長からは、今年度の県の教育の重点について、栗田副会長からはアクティブラーニングについてご自身の実践の紹介がありました。

続いて、叙勲者五名の方に記念品が贈られ、平工博司会員と神山喜義会員からお礼のあいさつをいただきました。

次に、伊藤修幹事から新会員十三名が紹介され、代表して深谷班の篠崎正明会員と寄居班の石川照雄会員からあいさつがありました。

議事は、熊谷班の馬場攻常任理事が議長となり、まず平成二十七年事業及び決算・監査の報告、承認と運びました。伊藤幹事から役員の一部交代が報告された後、平成二十八年度の事業計画案及び予算案を審議し、承認されました。

議事終了後、伊藤幹事から県総会代議員の紹介があり、「その他」では、植竹豊福利厚生担当から大里支部ゴルフ大会の連絡があつて大里支部総会が終了しました。

(文責 新井民男)

